令和 2 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 ： グループホーム さくら

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0370400426		
法人名	社会福祉法人 憲幸会		
事業所名	グループホーム さくら		
所在地	〒023-0003 岩手県奥州市水沢佐倉河字十日市85		
自己評価作成日	令和2年11月22日	評価結果市町村受理日	令和3年2月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年12月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・健康で穏やかに安心して暮らせる居場所の提供
・入居者、職員の垣根を超えた信頼関係作り
・入居者家族様との信頼関係作り
・美味しい食事の提供

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は、金ヶ崎町境の奥州市水沢佐倉河地区に立地し、同一敷地内には系列法人が運営する「グループホームいちょうの木」もある。また、協力医療機関のまごころ病院までは車で10分程度の距離にあり、利用者の多くが訪問診療を利用している。コロナ禍の今年は、これまで実施してきた事業の殆どを止むを得ず中止しているが、昨年までは、夏の憲幸会祭り、秋のサンマ祭りの他、認知症カフェも開設する等、意欲的に地域交流を行っていた。本年7月からは新管理者の下、新体制で利用者支援に取り組んでいる。他事業所と異なり男性利用者が多いが、ホール内には本を置く等の配慮や、日常生活ではそれぞれの特技を活かした役割を担っていただき、また、レクリエーションではトランプをしたりと工夫を凝らしている。手作りの食事も、単品での野菜料理を食べない傾向の男性利用者に配慮し、実だくさんな汁物に加え、色どり良くバランスのとれた食事を3食提供している。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項 目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項 目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム さくら

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日のミーティング、月1回以上の職員会議等で情報共有し実践につなげている。	毎朝10時頃、職員が揃う時間帯にミーティングを行っている。今年の7月に管理者が交替し、新管理者の下で新体制での事業所が再開している。職員全員作成した「ひとり一人に寄り添い　共に楽しく笑顔になれる生活」という事業所理念は、パンフレットにも掲載されている。	理念の浸透に向けて、運営推進会議資料や家族への手紙に記入する等、管理者、職員共に日常的に意識するような工夫を期待します。また、この理念の姿勢を、個々のその人らしさを尊重した日々のケアサービスの充実に繋げていくことを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地域との行事等実施できていないため、交流が例年通りには出来ていない。	例年は、法人として夏の憲幸会祭りや秋には地域住民も楽しみにしているサンマ祭りを開催するほか、地域の認知症カフェ参加等地域交流を図っている。今年はコロナの影響で行事は制限しているが、施設内の会場を使用し、可能な範囲で交流できるよう努めている。今後は、町内会総会参加等積極的な交流をしたいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍であるため地域の方々との交流が図れない。地域貢献は思うようには出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議も例年通りの開催とはいかず、今年は2回の開催となっている。民生委員様・区長様・ご近所様から毎回貴重な意見を頂いています。	運営推進会議の委員は、3名の民生委員の他、区長、駐在署長、市役所職員、地域住民と利用者家族で構成されているが、消防関係者等を加えるなど、災害時の避難対策の意見交換もしたい意向がある。コロナ禍のため会場は事業所ではなく、本部の部屋を利用して開催している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から、当法人の運営・活動についてご指導ご鞭撻を頂戴しております。	市長寿社会課職員に運営推進会議委員を依頼している。コロナ禍であるが、市の介護相談員が1名来所してくれた。利用者の状態低下に伴う介護認定の区分変更申請手続は、管理者が市の窓口に出向き円滑に進めている。新体制開始時には、市内の地域包括支援センター等に入居希望者を照会するFAXを送信し、情報提供もいただいている。	

令和 2 年度

事業所名 ： グループホーム さくら

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修や資料等で身体拘束について周知している。ただ介護抵抗による暴力行為が常にある入居者様においては、ベッド柵、オムツ交換時の拘束等必然性がある場合においては、ご家族様了解の上で拘束せざるを得ない時がある。	身体拘束会議を主務者会議（施設長と管理者で構成）開催に併せて毎月開催し、会議内容は書面で職員に周知している。今年度は、コロナ禍で外部研修が開催されず、管理者は内部での研修を工夫して行っている。日中、玄関の施錠はしていない。複数の職員で対応が必要であった困難事例は、調査時点で解消されていた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	毎朝のミーティング・職員会議・担当者会議等で虐待防止については周知徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を利用されている入居者様はいないが、研修には積極的に参加できる体制にある。ただコロナ禍で研修に参加していないため資料を回覧している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書の説明時に、不安や疑問点があるかお尋ねし疑問があれば説明している。契約書で再度十分に説明しご理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にて明示の他、運営推進会議、日々の面会（玄関先のみ）病院通院時物品連絡等様々な機会で意見・要望を聞く機会を設けている。	定期的に来所される家族から、「職員の名前と顔が分からない」との声があり、管理者は玄関に職員紹介コーナーを掲示することを考えている。運営推進会議委員以外の家族からは、通院時の同行や衣類等の持参等での来所機会をとらえて、意見、要望を伺っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティング、月1回以上の職員会議、主務者会議、全体会議等で意見交換の場を設けている。また施設長もたびたびさくらを訪れ気軽に話が出来る環境にある。	軽微な内容については、その都度又は朝のミーティング時に職員から話があり、ケアサービスやシフト関係等、日々の業務の話題を中心に意見、要望等を把握している。職員の提案で、午後の利用者活動を優先するため、利用者の入浴時間を午後から午前に変更した事例もある。	

令和 2 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム さくら

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就学、資格取得、各種研修会への協力など支援を惜しまない環境にある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各外部研修への積極的な参加、内部研修、外部研修など支援しているが、コロナ禍で中止になっている研修があったり、参加を取りやめるケースもある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で夏祭りは施設内のみで実施、地域や同業者の参加は呼びかけていない。グループホーム協会に加盟し情報を得ている。また入居者募集の際は同業者に連絡を取りネットワーク作りをしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様の成育歴・既往症・現在の環境等の資料をもらいアセスメントしご本人様と面談する。その後担当者会議を開き職員と情報共有し、本人の安心を確保するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族様・ご本人様・居宅ケアマネ様・病院からの退院の場合は担当看護師・医療連携室とカンファレンスを行い、不安なこと、要望等に対応し信頼関係を構築できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様の成育歴・既往症・現在の環境等をもとにアセスメント、ご本人様・居宅ケアマネ様・病院からの退院の場合は担当看護師・医療連携室と情報共有し本人と家族が必要とするケアサービスが出来る様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の時は同じテーブルに職員も座り一緒に食事をしている。また食器拭きや掃除機掛けを一緒に行って共同作業をすることで連帯感も生まれている。		

令和 2 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム さくら

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院通院時、急変時は様子を伝達して情報共有し、医師に施設の様子を手紙で知らせている。また遠方の家族様には定期的に電話連絡、お便り等で様子を知らせている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所への外出は、本人様も記憶になく難しい。馴染みの人は面会に来所される事もあるが。本人様が誰か覚えていないことが多い。	コロナ禍の影響から、馴染みの人や近所の人の来訪は減少気味であり、外出による訪問も難しい状況にある。定期的な受診介助や衣類等の持参で来所する家族や、利用者毎の予定で来所される協力医療機関の医師や看護師が、馴染みの関係者となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操やカラオケ、トランプ等なるべく利用者同士が一緒に出来るレクを毎日実施している。滅多にないが利用者同士不穏になりそうな時は職員が気をそらしたり紛らわしたり対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院で退所した方には「その後体調いかがですか？」の電話を入れる様にしている。 また、連絡いただいた時には丁寧に対応している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	成育歴、既往症、現在の環境等を把握した上で、ご本人・ご家族の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は再度カンファレンスをし本人本位留意し再度職員でケアを検討している。	利用者は、意思表示出来る方々だが、聴覚障害の利用者や精神疾患をお持ちの利用者は、それぞれ配慮が必要である。日によって状態が異なることもあり、スタッフ同士の情報交換を心掛けている。介護記録や日々の申し送り、個々の利用者との会話等を通し、思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所申し込み時の家族からの聞き取り、居宅ケアマネからフェースシート、あれば主治医の意見書、退院であれば退院情報提供票をもらい本人の状況把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のミーティングでの申し送り、業務日報、個々のケース記録等で現状の把握に努めている。		

令和 2 年度

事業所名 ： グループホーム さくら

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のミーティングでの申し送り、業務日報、個々のケース記録等でモニタリングし現状の把握に努め、必要に応じて家族にも担当者会議に参加してもらい介護計画書に反映している。	管理者が介護支援専門員を兼務している。新規利用者には、入居前に介護支援専門員がアセスメントを行い、入居当初の介護計画を作成している。居室担当者制は採っておらず、介護支援専門員が介護計画のモニタリングを行い、介護計画案を作成後の職員会議で職員が意見を出し合い見直しを行っている。見直し後に家族を交えた担当者会議を開催している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の食事量、排泄、皮膚状態、行動、言動、健康状態等詳細に記録し職員間で情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日のミーティングでの申し送り、業務日報、個々のケース記録等でモニタリングし現状の把握に努めているが、ホウレンソウが機能していない時もあり、その時々のニーズに常に対応出来ているかは疑問。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍と入居者の方の介護度が重篤化してきており、地域資源との協働は難しい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関があり毎月訪問診療に来てもらっている。急変の場合は職員が同病院まで救急受診している。遠方の家族、交通手段がない家族が多く適切な医療が受けれて安心している。	協力医療機関から、毎月利用者毎に訪問診療の日時のお知らせがあり、その日の担当医師が当日の予定者を診察している。主治医を協力医療機関へ変更する場合には、元のかかりつけ医から紹介状を作成していただき、一度協力医の診察を受けてから訪問診療を開始する仕組みとなっている。精神科や眼科の専門医を受診している2名の利用者は、家族の付き添いで受診している。	

令和 2 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム さくら

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日に訪問看護師が来所、1週間の入居者様の健康状態の報告と現状の健康状態を観察してもらい指導を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	提携医療機関との情報交換や相談は良好な関係が築けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	おひと方、重篤化した入居者様がいて、提携病院の医師から終末期の説明を受け、当施設でも家族様を交え終末期に向けた話し合いを行い、訪問看護ステーションの情報提供もした。	かかりつけ医の協力を得ながら、重度化した利用者を事業所で支援していたところ、低下していた食欲が回復し、現在は落ち着いて生活が出来ている。重度化、看取りの指針やマニュアルが整備され、看取り経験者もいることから、管理者は、職員の体制や心構え、法人内全体の状況に照らしながら、事業所としての基本的な看取りの方向性について、順次病院等関係機関との協議を進めてみたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応についてマニュアルを作成しており、連絡網も掲示し対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は火災訓練は実施していない。 地域の区長さんには協力をお願いしている。	連絡網記載のかけつけマニュアルを作成し、複数の職員に連絡されるように設定しており、利用者の無事確認表も整理されている。同一敷地内に系列のグループホームが1箇所運営されているものの、職員の事業所への駆付け時間は、一番早い職員で10～15分程度である。運営推進会議委員である地区の区長等の協力をいただいている。	薄暮時間帯の避難訓練実施、避難場所や自家発電機作動の確認など、実際の災害を想定し、一層の事前確認を強化するとともに、職員にあっては、ハザードマップや停電によるオール電化のストップ対応を習得し、併せて利用者が普段の生活の中から避難方法を身につけることが出来る工夫が望まれます。また、避難時の利用者見守り訓練等の構築など、さらなる近隣住民との連携強化を期待します。

令和 2 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム さくら

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	統合失調症の既往症の入居者様が数名おり、言葉遣い（命令口調や行動を遮る口調等）には細心の注意を払っている。強みをほめ弱みは励ます様にしている。 個室なのでプライバシーは確保されている。	利用者への声がけは、苗字か名前に「さん」付とし、居室への入室時は必ずノックしている。成育歴や職歴等から配慮が必要な利用者が多く、プライドを尊重したり、ネガティブな話題に触れないよう慎重に対応している。また男性利用者は器用な方が多く力もあり、日常生活の場面で長所を活かしていただいている。稀に、利用者同志の相性等を配慮して居室替えを行うこともある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で無理強いはせず、ご本人様の意思を優先するように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを職員同士情報共有しており、出来るだけ一人一人のペースを大切にしている。また希望に添えるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張理髪で定期的に散髪、洋服は本人様希望があればご家族に伝え持ってきてもらったり、着替えの際はご本人に選んでもらったり職員がアドバイスしたりする。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と職員が食卓を一緒に囲み楽しく食事している。また後片づけは一緒に行い、洗った食器拭き、テーブル拭きを手伝ってもらっている。	小グループにテーブルが2ヵ所あり、職員がそれぞれのテーブルに入り利用者と一緒に食事をしている。食事の下ごしらえは行っていないが、後片付け等は職員と一緒に利用者も手伝っている。男性利用者が多く、野菜を沢山食べるよう実だくさんの汁物を提供する等、献立を工夫している。屋外での焼きサンマや流しそうめん、スイカ割り等の季節の行事食の他、寿司や牛丼等の外食テイクアウトを楽しむ機会も日常的に提供している。	

令和 2 年度

事業所名 ： グループホーム さくら

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回の食事量・水分量のチェックをし1日の必要量を確保できるよう支援している。また栄養バランスの摂れた献立を栄養士・調理師さんに相談したりネットで調べたりし工夫すると共に、食事形態もミキサー食・刻み食・普通食と各個人になった食事形態でお出ししている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科で口腔ケア指導をしてもらっている。また、毎食後職員が口腔ケアを促し、磨き残しは介助し口腔ケアに努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護度が5・4の方はオムツ対応となっている。その他の方は定時のトイレ誘導・声掛け・見守り等をおこなって自力での排泄行為を支援している。	各居室にドア付トイレがあり、昼夜基本的には居室内のトイレを利用している。要介護4の方は座位をとれないため止むを得ずオムツ使用しているが、他の利用者は、布パンツやパット併用等、それぞれの状態に応じ排泄用品を使用している。声がけ誘導や下着類の上下げ等、トイレでの排泄が出来る様に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分補給、食物繊維の摂取、医療との連携で便秘薬の調整をし排便を即している。また午前午後と体操をし体を動かすようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	無理強いせずに声掛けし実施している。失禁した場合等やむをえない時は理由を話しシャワー・入浴してもらっている。	居室の浴槽は使用せず、共用の浴室を使用している。原則一日おきに提供し、前日入浴していない方を優先に声掛けをしている。入浴剤を使用し、冬場には湯上り後にローションを塗ってあげたりしている。入浴を嫌がる利用者には、入浴後の楽しい話題を話し、気分よく入浴出来るよう誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しないよう日中はできるだけ運動やレクをし心地よい疲労感を持って眠れる様に支援している。就寝時の声掛けは行うがあとは本人次第になっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の指導のもと薬情を保管し職員で情報共有している。服薬は個人個人のケースに収納し内服時は職員で声掛けし複数の職員でチェックしている。		

[評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会]

令和 2 年度

事業所名 ： グループホーム さくら

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時のフェイスシート（個人情報）や聞き取りで趣味や好きな事を聞き取りしている。コロナ禍の中だが紅葉ドライブ・芋の子会を実施し喜ばれた。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で家族や地域の方との交流は難しい。ドライブがてら買い物に一緒に連れていっているくらい。あとは施設の敷地内の散歩、ベランダでの日なたぼっこくらいである。	週1、2回食材の買い出しに出かける利用者が、2、3名いる。天気の良い日には敷地内を散歩したり、ホールからウッドデッキに出て日光浴をしている。コロナ禍でも、利用者全員で春には花見、秋には紅葉狩りに、夏油方面や奥州湖から一関方面まで、何回かドライブに出掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失や盗難の余計な心配ごとが増えるので、金銭を本人には持たせていない。家族で通院や家に帰宅等の時にお金を使う分には家族に任せている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	帰宅願望がある方、家族に会いたがっている方には、家族に電話し声を聴かせることもある。手紙は同封の写真を部屋に飾り手紙の内容を話して差し上げている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには入居者様が描いた絵を飾り、季節ごとのディスプレイをし季節感を出している。ソファーでゆったり過ごせるようロールカーテンを用い日差しの調整と、くつろぎ感を出している。	周辺は水田地帯や桜など、豊かな自然環境に囲まれている。ホールには2つのテーブルの他、テレビを寛いで観れるようソファーが二方向に置かれている。男性利用者が多く、テレビ前以外のソファーの側には、本を見るコーナーもある。外のウッドデッキに出て外気浴を楽しむことも出来る。ホールにはクリスマスツリーが飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは一人で過ごせるスペース・会話スペース等シーンに対応したスペースを用意している。		

令和 2 年度

事業所名 ： グループホーム さくら

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様にお願いし、家族写真・旅行写真を飾ったり、使い慣れた家具やお気に入りの置物を置いたりし居心地の良い空間を作っている。	居室には、ベッド、トイレ（ドア付）、風呂、クローゼットが備えてある。自分の居室が分からない利用者のために、入り口の表札を立体的にしてある。居室内には、自宅で使用していた寝具を持ち込んだり、使い慣れた家具や家族写真が置かれ、それぞれの利用者が住みやすい環境となるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は廊下からでもわかるよう名札を立体化、居室の入り口はお花の絵、本人が作った工作を飾っている。台所からホール全体が見渡せ見守りが出来る。		